

高校生の作文共同編集における 関わり合いと表現の確定の研究

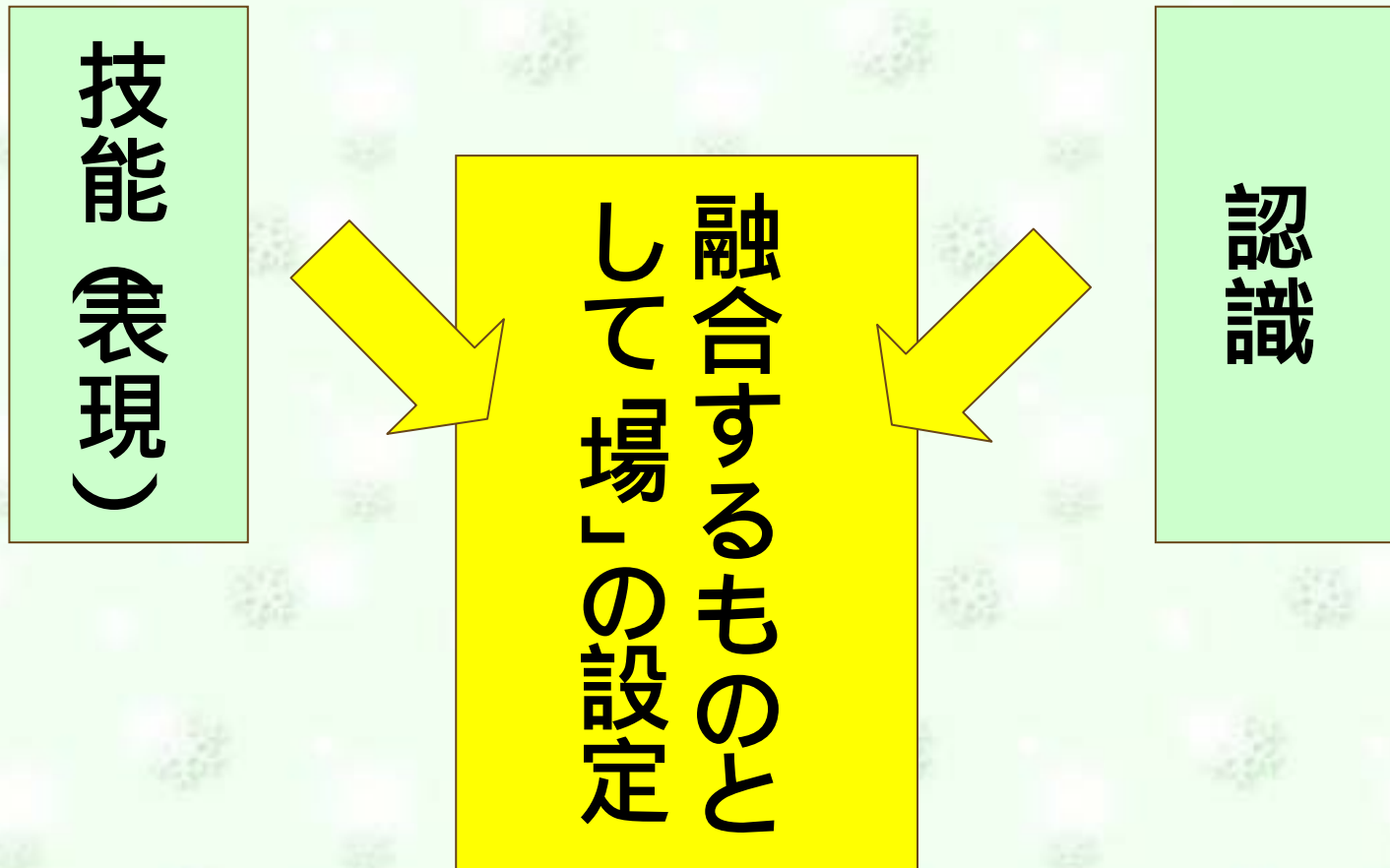
片桐史裕（新潟県立高田商業高等学校）

発表内容

1. 研究の背景と目的
2. 他者との交流による個の表現の確立について
3. 提言と今後の課題



● 作文学習の意義



「場」の設定の意義

- 首藤(1984)
 - 書く意義を実感させ、意欲の向上をねらう。
- 桑原(2002)
 - 場の中で他者と交わり、コミュニケーションの中で、他者からのフィードバックがある。
- 大内(2001)
 - 作文を書いた目的の成果をすぐに見せるために、学級という場を活用すべきである。

教師の指導と(作文)学習

- 内田(1990)
 - 教師の(時と場を隔てた)添削は学習者の思考の育成に逆効果であり、書こうという意欲をそいでしまう。
- 桐生(2002)
 - 教師の教え込みを排し、自主的な活動を保障することにより、人間関係を形成し、課題を解決していく。

作文共同編集



アドバイスを受けて
1人1人が個々に
作文を作る

構想の段階から相談
できる環境を設定する

共同

編集

学習者が満足のいく作品

- 作文教育の意義を学校教育活動で実現するために、作文学習全体を通して学習者の自主的な活動を行う。
- その活動において他者と関わり合うことで各自の表現はどのように確定されていくのかを明らかにする。

発表内容

1. 研究の背景
2. 他者との交流と個の表現の確立について
3. 提言と今後の課題



他者との交流と個の表現の確定について 1. 調査方法

- 調査時期・対象

2003年4月9日（水）～5月28日（水）計13時間

（作文編集活動は7時間）

新潟県立T高等学校国語表現選択者

49名（22+27）2講座計13グループ（参与観察）

- 授業内容

ガイダンス・伝達ゲーム(3)

課題：「あなたにとって働くということとは？」(4)

課題：「まわりの仲間を感動させる文」(5)

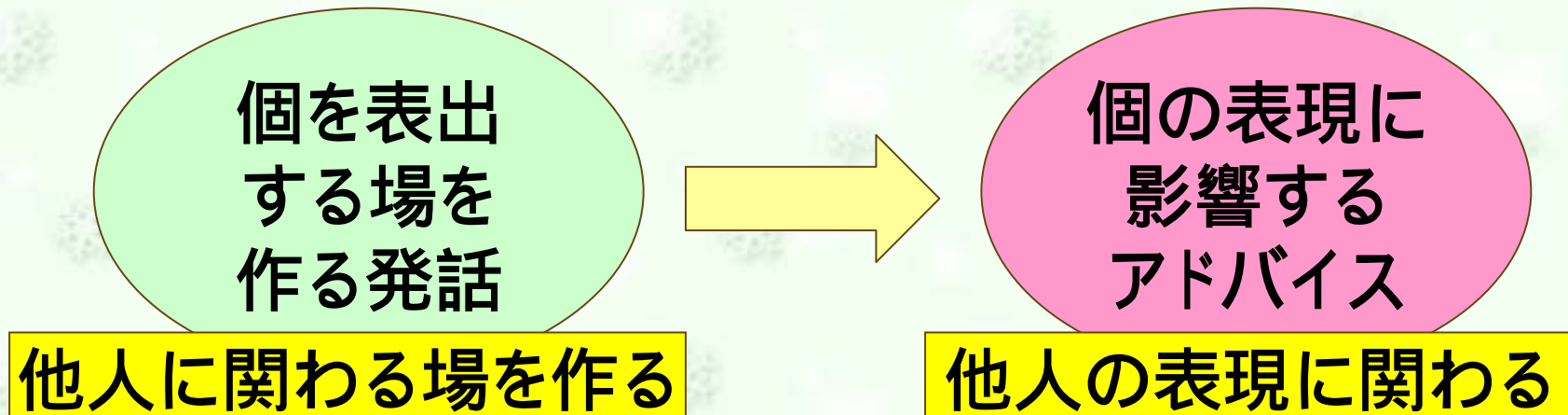
課題：レポート・ふりかえり(1)

- 記録方法

ICレコーダー・ビデオテープ・作文



● 初期と後期で会話の質が変化する



● 他者との交流により個の表現が確かなものとなる

会話の質の変化

初期段階と後期段階の会話の質の変化

同意同調発話

- (1) つぶやきに対する肯定的な反応。
- (2) 初めから同意を求めるような発話とそれに対する肯定的返答。
- (3) 自己に対しての否定的意見を否定する。

学習状況確認

- (1) 他の人がどれだけ進んだか確認。
- (2) 自分が進まないことを提示。

アドバイス

- ・ 他者（読み手）の視点からの意見。

個を表出する場を作る発話

個の表現に影響する発話

会話の質の変化

初期段階と後期段階の会話の質の相関関係 同意同調発話

(1) つぶやきに対する肯定的な反応 25-4-0423

- (015) (a) 語彙脱字があってもおかしくないんです。
(016) (b) あたしも
(017) (a) なんせ授業中に書いたから
(018) (b) あたしも

相手の発話に同調



会話の質の変化

初期段階と後期段階の会話の質の変化

同意同調発話

(2) **初めから同意を求めるような発話とそれに対する同意** 25-3-0421

(005) (a) 難しいよ。これ。

難しいのは周知
の事実

(006) (b) 難しいね。

(007) (a) ね。働かって...うーん。働くことで()

(008) (b) うん。()。働くのも仕事だしね。

(009) (a) うん。そうね。()働けるしね。

(010) (b) うん

(011) (a) なんかもんどくさい。

相手の発話に同調

会話の質の変化

初期段階と後期段階の会話の質の変化

同意同調発話

(3) 自己に対しての否定的意見を否定する。 25-4-0423

(041) (a) Y さ、字、すごく大きくて見やすい。

(042) (y) ごめん、すごい、妙に濃いよね

(043) (c) ううんそんなことないよ。

(044) (a) みやすい。

(045) (b) 所々濃い所があるのは、たまにリキんで書いてるから。

(046) (a) せっぱつまると字濃くなるもん。

(047) (y) なるなる。がががががって。

(048) (a) すごい現れてるよ。あたしの。



会話の質の変化

初期段階と後期段階の会話の質の変化

学習状況確認 25-4-0421

他の人がどれだけ進んだか確認。

自分が進まないことを提示。

- (064) (a) どーしよー。
- (065) (b) なんだよー。()だよー。
- (066) (c) ぜんぜん書いてない。
- (067) (b) あたし、なに言ってるんだろう ふいふいふ何を相談していいかわからないよ。
- (068) (d) あたしが一番少ないと思う。
- (069) (b) まだ1行いってない。書けよ。
- (070) (d) 書きたいんだけどさ、それをどう文章にするかだよ。



会話の質の変化

初期段階と後期段階の会話の質の変化

アドバイス 25-4-0514

他者の視点から作文を捉えた意見

(b)作者

(235) (b)ここ1文消そうかなって思って「その反面とてもうれしかったです」を消そうかなって思ってこれだけでは()ねー。この1文いらない。これ消せば

(236) (a)それはいいんじゃない？

(237) (b)えーだってそうしたら()ちゃうじゃん

(238) (c)よろこばしかったです

(239) (a)よろこばしかった

作者の案を否定

会話の質の変化

初期段階と後期段階の会話の質の変化

アドバイス 25-4-0514

他者の視点から作文を捉えた意見

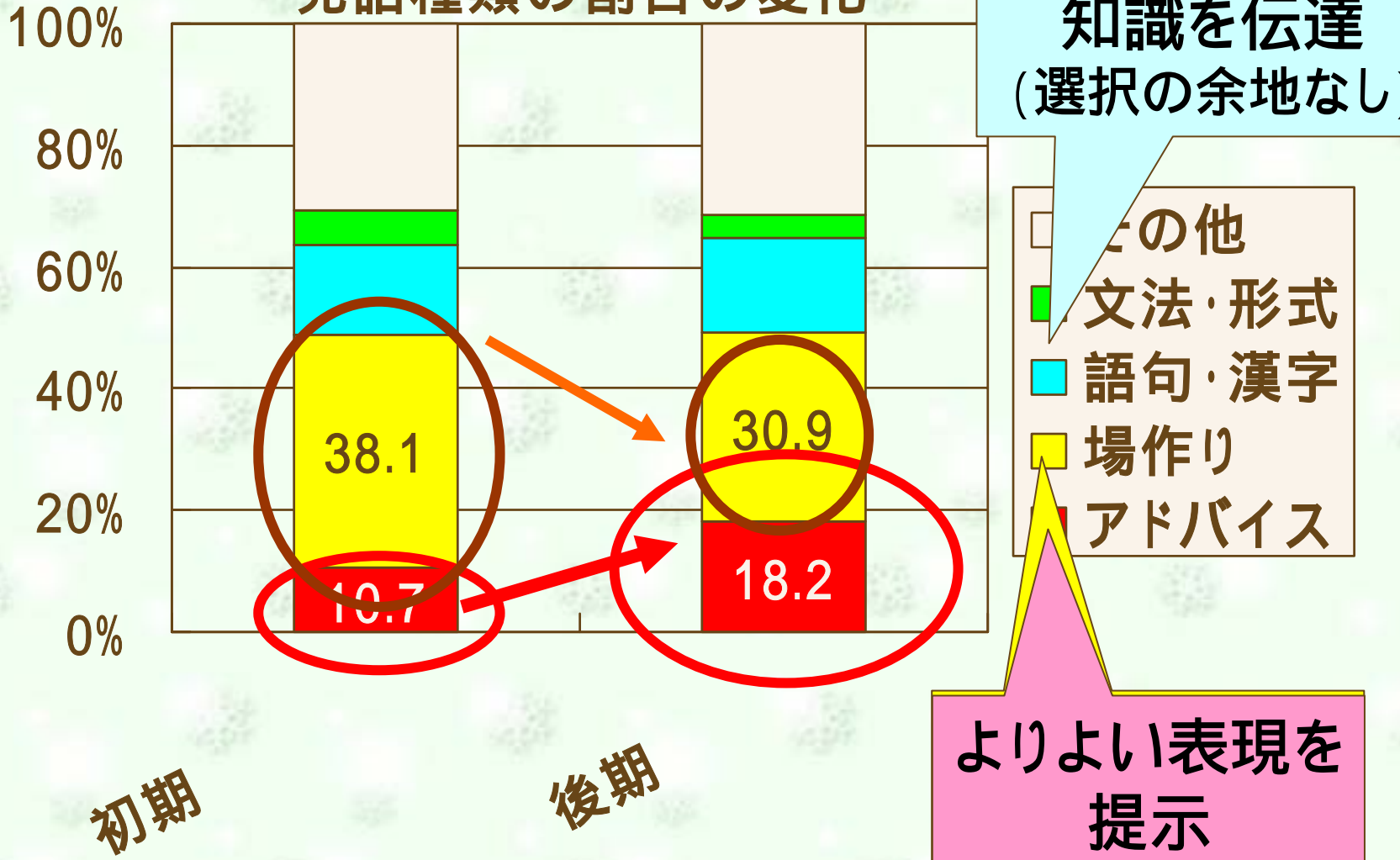
- (240) (b) それ違う
- (241) (c) () よね
- (242) (a) ほほえましかったにしよう
- (243) (b) なんでー
- (244) (c) 違うよそれ
- (245) (b) 第3者の目から見てなんかいいわ。
- (246) (c) そうだ

アドバイスにより作者が第3者の
視点から見ることができた。



会話の質の変化

初期段階と後期段階の会話の質の変化 発話種類の割合の変化



初期

後期

(026) (b) さいごにさ、あれ、()すこしずつ大人
になっていくっていうのあるじゃん、

(027) (a) うん。

(028) (b) ()は()だと思っただけど、働くだか
ら、「働くとは ということなんだ」みたいな
で終わった方がいいのかな？てのはある。
と思った。思っただけ。ごめんね。

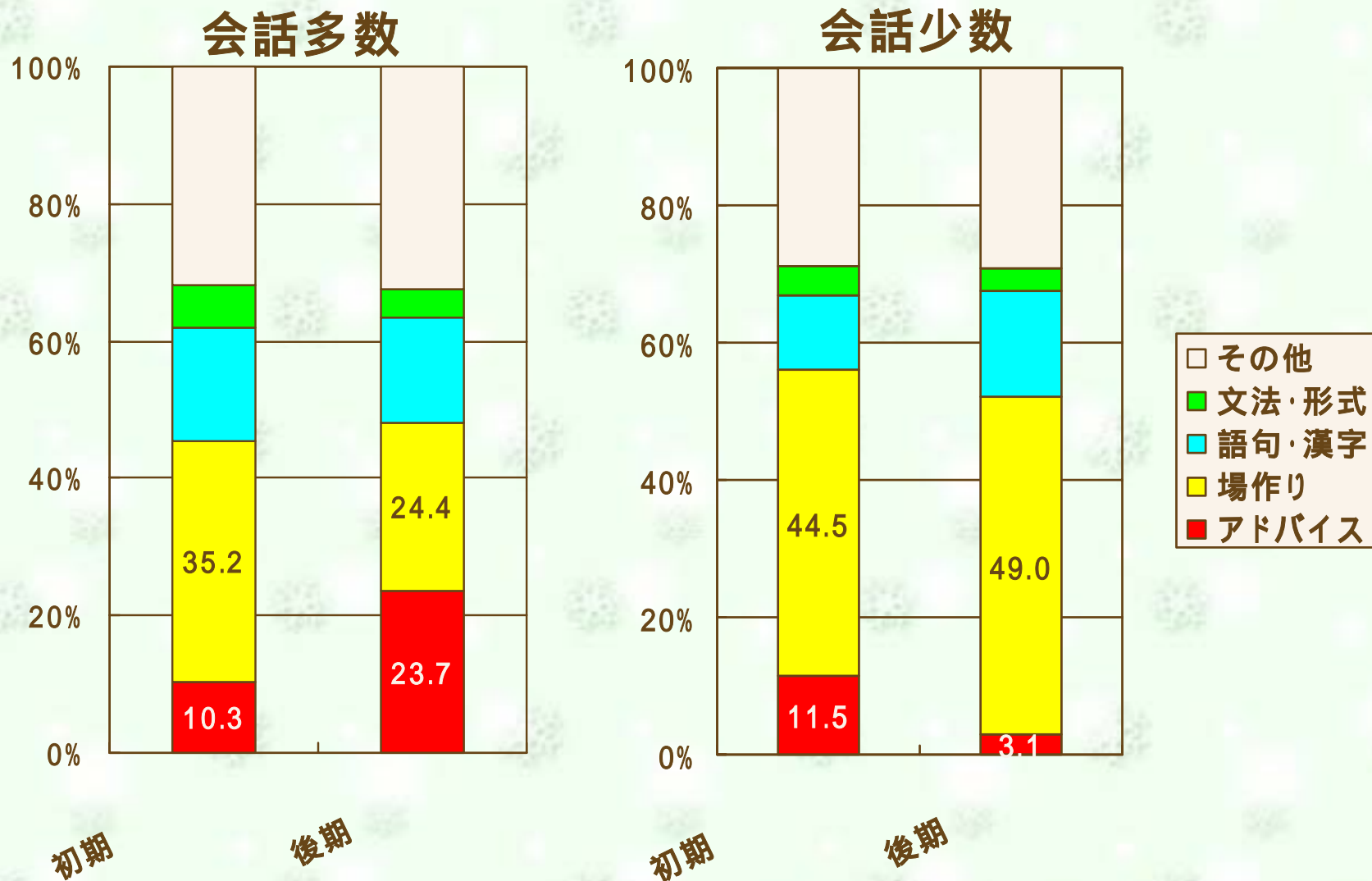
(029) (a) いいよ。

(030) (b) なんていうの。かもって思ったの。

(031) (a) うん。

会話の質の変化

初期段階と後期段階の会話の質の変化



場作りがうまくいかない事例（会話少数班）

25-1-0428

(045) (a) 「みにつける」って、何でさ、「見る」に「付ける」なのさ？

(046) (b) 「身」だよ。からだ。

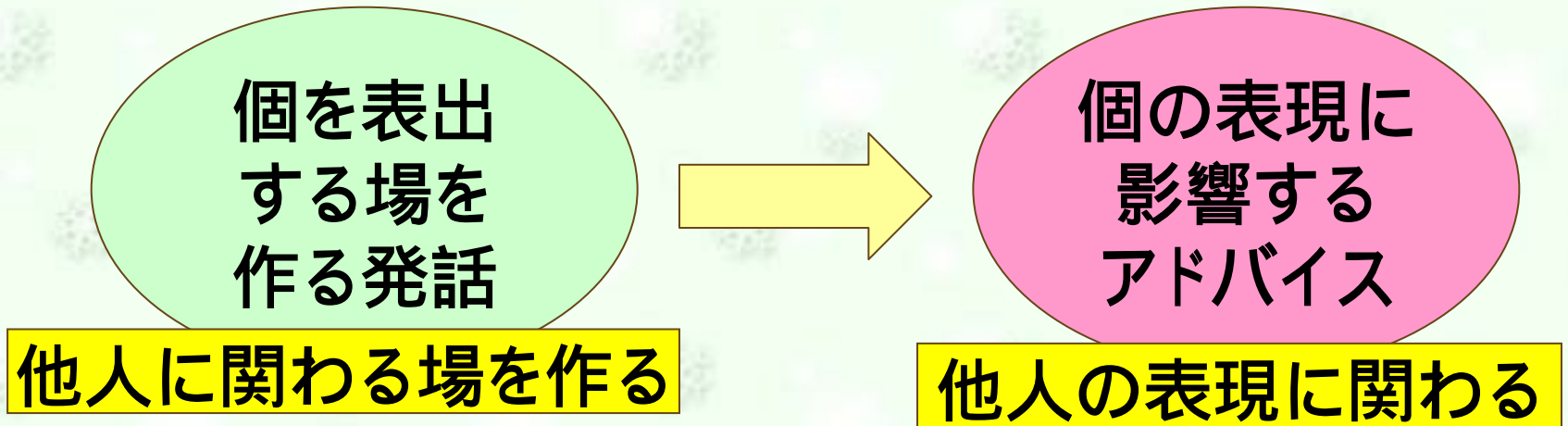
(047) (c) あ、そっか。

(048) (a) ばーか。

(049) (b) ばーか。

アドバイスが少ない

● 初期と後期で会話の質が変化する



● 他者との交流により個の表現が確かなものとなる

他者との交流と個の表現
表現の確定場面

《清書》

自分が働いて会社に貢献し



a

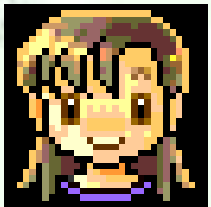
おー！

おー！



c

「アハー体験 (Ach Erlebnis)」
思い通りの表現に出会った



b (作者)



d

他者との交流と個の表現の確定について

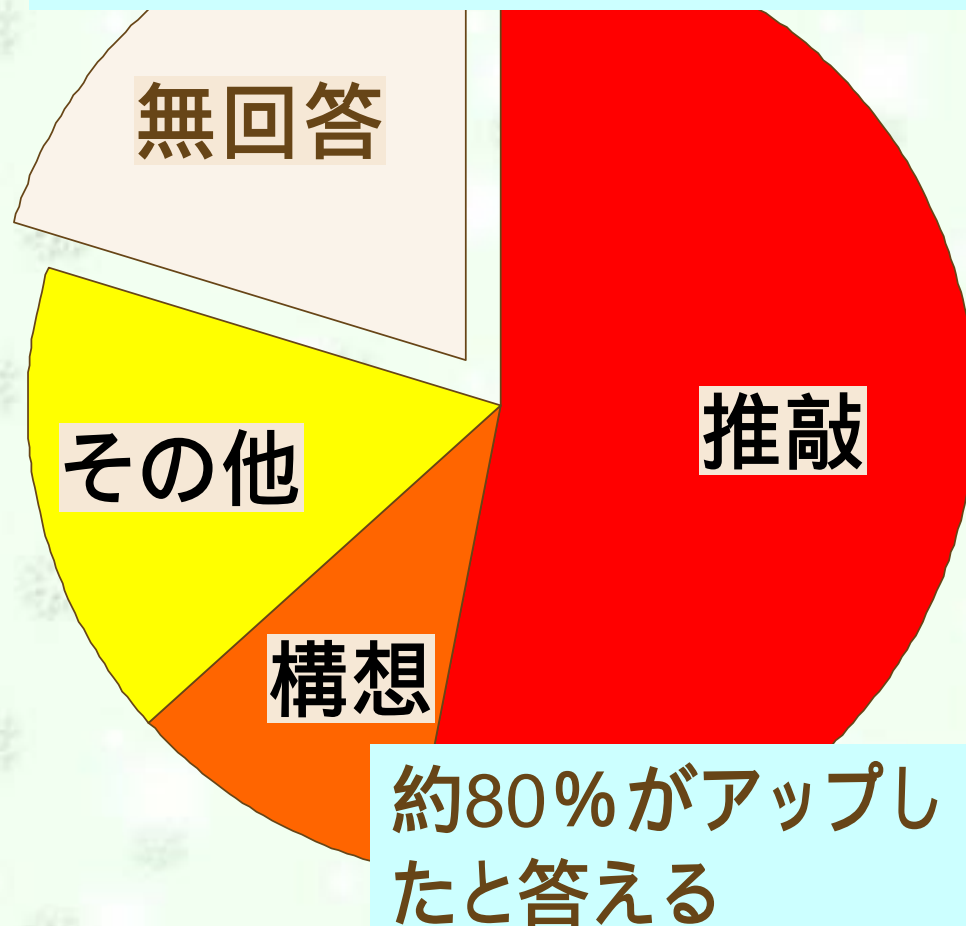
作文の自己評価

- その時あったことや、**思っていること**を書けたから。
- 自分の気持ちや**思い**がそのまま出せたと思うから。
- **自分の言いたかったこと**を全て伝えることができたから。
- **書きたいことは書けたし、感動してもらえたから。**

他者との交流と個の表現の確定について

他者との交流による作文学習の効果

グループ活動は作文力をアップさせたか？



他者との交流と個の表現の確定について

表現確定後の変更



編集でできた表現は納得のいったものなのか？

修正

編集活動での推敲の働きは個人に身に付いているのか？

約3ヶ月後に個々に「修正」

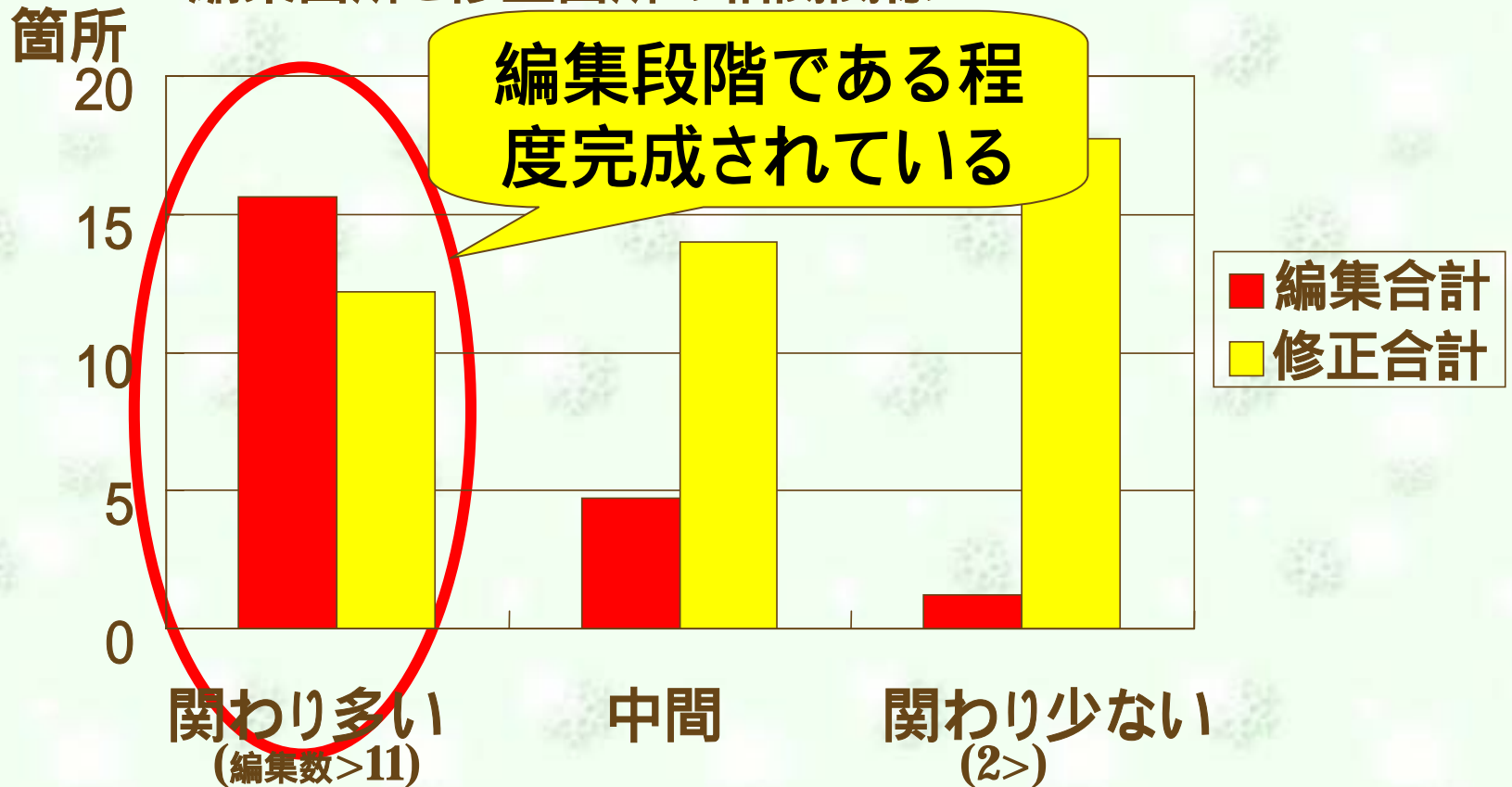


より完成度の
高い作文

他者との交流と個の表現の確定について

表現確定後の変更

編集箇所と修正箇所の相関関係



2つの課題での合計を各班ごとに平均したもの

他者との交流と個の表現の確定について 表現確定後の変更

編集されたものに
ほとんど修正は
必要ない

調査対象49名94作品

編集箇所	修正箇所	編集箇所を 修正したもの
102	188	1

他者と関わることにより、個の表現が
完成されたものになった。

他者との交流と個の表現の確定について

結論

- 「個」の表現は「他者」によって流されたり消滅したりするものではなく、「他者」との交流により、より確かなものになっていくものである。

発表内容

1. 研究の背景
2. 他者との交流による個の表現の確立について
3. 提言と今後の課題



提言と今後の課題

- 教師による「正しい表現」の指導だけでは学習者の「自由な思い通りの表現」は抑圧されてしまう。
- 学習者同士で読み合う作文学習を取り入れることで様々な人を「読み手」と意識する文章が書けるのではないか？
- 推敲時以外での個と他者の関わり合いによる表現の確定を明らかにしていく。

以上で終わりです。

ご静聴ありがとうございました。

ご意見・ご感想をよろしくお願いします。

